

日本と東南アジアの多様な文化芸術の担い手による  
**オンライン交流対談「アジアセンター クロストーク」**  
全 10 回シリーズ 3月10日（木）無料配信スタート



国際交流基金（JF）は、日本と東南アジアの芸術文化の担い手によるオンライン対談番組「アジアセンター クロストーク ～ポスト・コロナに向けて旅する文化～」を YouTube で無料配信します。

新型コロナウイルス感染症の影響で国境を越えた交流が制限される中、伝統芸能から現代アートまでさまざまな分野で活躍する人々がオンライン対談で交流します。

コロナが芸術文化に与えた影響は、各国一様ではありません。その状況下における取り組みにも、作り手それぞれの創意工夫が見られます。全 10 回の対談はいずれの回も、今後の世界に目を向け、そこから浮かび上がる未来の創作を巡る興味深いものです。芸術文化の継承や運営に関する厳しい課題から、自身の活動や社会を見つめ直すきっかけや新たに得た示唆や転機の話まで、多岐にわたります。各回の登壇者の作品や現地取材映像を交えた構成で、登壇者を初めて知る方も親しみやすく理解を深められます。

## 記

- 事業名称 : アジアセンター クロストーク ～ポスト・コロナに向けて旅する文化～  
主催 : 国際交流基金アジアセンター  
配信日 : 2022年3月10日（木）から順次配信  
配信 URL : <https://youtube.com/playlist?list=PLR82S6MFHeImFtHyer3qxcR-L-bj3X0uZ>  
番組本数 : 10本（各回約30分）  
対談分野 : パフォーマンス、コンテンポラリーダンス、サステナブルデザイン、工芸、現代アート、伝統芸能、祭りとコミュニティ、オーケストラ、建築  
字幕 : 日本語、英語（一部の回では該当する東南アジア諸国の言語）  
映像製作 : 株式会社エネット

**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

対談内容・登壇者：

## ■ パフォーマンス編 〈ラオス×日本〉

日本はダンスを、ラオスはオブジェクトシアターを扱う表現者を招き、「オブジェクト（モノ）×身体」という共通点を持つなかでの、自身の立ち位置や、創作の意味について考えます。



ラタナコーン・インシエンマイ  
演出家／俳優

©Charida Punyaneermitdee



白神ももこ  
振付家／演出家／ダンサー



モデレーター：千徳美穂  
文化事業コーディネーター

## ■ コンテンポラリーダンス編 〈マレーシア×日本〉

マレーシアと日本のコンテンポラリーダンサーが登壇し、双方が感じている国内外のダンスをとりまく事情やその違い、そしてダンスの未来について、話し合います。

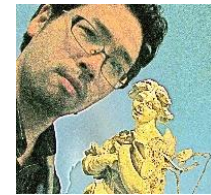


マリオン・ドウ・クルーズ  
ダンサー／振付家／プロデューサー／教育家

©Sadato Ishizuka



森山開次  
舞踊家／振付家／演出家



モデレーター：乗越たかお  
小説家／舞踊評論家

## ■ サステナブルデザイン編 〈インドネシア×日本〉

大量生産・大量消費が問題となっている今日、ファッションをとりまく再利用可能な繊維素材の開発や研究に取り組んでいる専門家を招き、サステナブル（持続可能）なデザインの新しい在り方とはなにかを探ります。



アンニサ・ウィビ  
MYCL 共同創業者兼最高執行責任者



水野大二郎  
デザイン研究者



モデレーター：山崎亮  
コミュニティデザイナー

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## ■ 工芸編 〈タイ×日本〉

日本は日本民藝館、タイはデザイン工芸を扱う TCDC（タイランド・クリエイティブ・アンド・デザイン・センター）から、組織のなかで各国の工芸・民藝を普及し研究する立場の専門家を招き、工芸をとりまくその国の歴史と、現代の課題、工芸の在り方を探っていきます。



チュッタヤーウェート・シントゥバン  
クリエイティブ・エコノミー・エージェンシー  
コンケン ディレクター



古屋真弓  
日本民藝館 学芸員



モデレーター：後小路雅弘  
美術史家／北九州市立美術館 館長

## ■ 現代アート編 〈シンガポール×フィリピン×日本〉

レクチャーやダンスなど自らの身体や、コミュニティという共同体を表現として扱うアーティストを招き、それぞれの表現を通して考えられる身体性の特徴や映像表現の違い、また国・地域を意識した創作について語り合います。



ホー・ルイアン  
アーティスト／ライター



アイサ・ホクソン  
アーティスト／振付家／ダンサー



加藤翼  
アーティスト



モデレーター：橋本梓  
国立国際美術館 主任研究員

## ■ 伝統芸能編 1 〈ベトナム×マレーシア×日本〉

ベトナムの水上人形劇、マレーシアのワヤン・クリ、日本の文楽の三国三者による鼎談。伝統芸能を生業に選び、歴史ある文化を次代に受け継いでいくことの意味について、各自の芸能を紹介しながら語り合います。



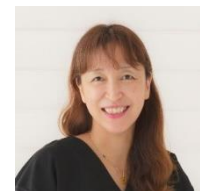
チャン・クイ・クオック  
タロン水上人形劇場  
人形遣い



カムルル・フジン  
ワヤン・クリ人形遣い/  
音楽家



吉田 眞紫郎  
文楽人形遣い



モデレーター：田畑則子  
株式会社 Adventure Japan  
代表取締役

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)



## ■ 伝統芸能編 2 〈カンボジア×日本〉

カンボジアはアンコール文明の地で、日本は霊峰白山を頂く山間の集落で、それぞれ個性豊かな芸能を継承する担い手による対談。足のさばきに見られる意外な共通点から伝統継承の難しさまで、率直に語り合います。



チャン・ソバーン

スパエクトム ティー・チアン一座  
座長



山口久仁 土井下悟史

若手人形遣い 人形遣い  
東二口文弥人形浄瑠璃保存会



モデレーター：塚田千恵美

公益財団法人現代人形劇センター理事長／  
人形劇プロデューサー

## ■ 祭りとコミュニティ編 〈カンボジア×日本〉

コロナ禍で苦境に立たされている祭りやフェスティバル。人が集まることによって成り立つ「祭り」の本質を、コミュニティやカルチュラルアイデンティティにも触れながら考えていきます。



リッティエー・ロムオーピッチ

映画監督／  
フェスティバル・プロデューサー



©Maciej Komarowski

根木龍一

microAction 代表／  
橋の下世界音楽祭 主宰／  
有限会社ストーンズ取締役



モデレーター：大石始

ライター／選曲家

## ■ オーケストラ編 〈タイ×ベトナム×日本〉

西洋から輸入したオーケストラ文化は、アジアにどのように根付き、発展していくのか。アジアならではの新たな文化創造の可能性を含め、タイ、ベトナム、日本それぞれの在り方と未来を語り合います。



ワンチャイ・ヤンウボン

王立バンコク交響楽団  
ゼネラル・マネージャー



グエン・ミン・ズイ・リン

作曲家／  
ホーチミン市バレエ交響楽団 &  
オペラ舞台芸術部長



磯部周平

クラリネット奏者／  
東邦音楽大学特任教授



モデレーター：柿塚拓真

公益財団法人神戸市民文化振興財団  
事業部演奏課 演奏担当課長

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## ■ 建築編 〈インドネシア×ベトナム／日本〉

インドネシアで活躍する建築家とベトナムで活動する日本人建築家。アジア各地の風土や文化を活かした現代建築のあり方をどのように思考し、デザインしていくのか、建築の未来を見据えながら意見を交わしていきます。



©Davy Linggar

アンドラ・マティン  
建築家



西澤俊理  
建築家



モデレーター：五十嵐太郎  
建築史家／建築批評家

見どころ：

### 1. オープニング・アニメーション

各回の動画冒頭に流れるオープニング・アニメーションを、インドネシアのアニメーション・クリエイターであるクララ・クリスティーナ・ワヤラ（Clara Christine Wijaya）氏が手がけました。日本に旅行で訪れたことがあるワヤラ氏による、各回をイメージした象徴的なアイテムがアニメーションに加わっています。エキゾチックで、独特な色遣いと画のタッチが魅力です。

### 2. テーマ「旅」と動画構成

全対談ジャンルに共通するテーマを「旅」をテーマとしています。対談だけでなく、日本と東南アジア各所で行った現地取材を基にした登壇者の活動紹介を織り込みました。

以上

---

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)